

建設防災 ボランティアニュース 第73号

目次

- ・ 総合防災訓練
- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 前期道路施設等点検
- ・ 隅田川著名橋等ツアー
- ・ 東京 橋と土木展

令和元年度総合防災訓練！！

ー多摩市に 10 名が奮闘ー

9月1日(日)、多摩直下地震(マグニチュード 7.3)が発生したとの想定で「令和元年度 東京都・多摩市合同総合防災訓練」が、多摩中央公園、多摩センター駅周辺会場で開催されました。

当日は無風、快晴で気温 30 度を超える暑いなか、局からの協力依頼人数 8 名を上回る 10 名の協会員が参加しました。

全体訓練の最初に、参加者の注目を浴びながら南東建班の道路啓開訓練担当が颯爽と登場し、展示・体験訓練会場では西部公園班と南東建班が終了間際まで多くの都民対応に汗をかき、昼前の暑さ厳しくなる中での講評で訓練は終了しました。その後の協会員全員と事務所幹部職員合同の昼食を兼ねた反省会で一息つきました。長時間の活動本当にお疲れ様でした。

担当理事 久保田元久

道路啓開と展示・体験に参加・・南東建班

9月1日、南東建班及び応援参加の北南建班の 7 名(以下敬称略。柿塚、杉本、矢内、丸岡、若尾、佐々木、柴田)は本部役員(新井、野村、久保田)が見守る中、東京都・多摩市合同防災訓練に参加しました。

建設局では①多摩ニュータウン通りでの緊急・交通路確保訓練②多摩中央公園内での道路障害物除去訓練③パルテノン大通りでのパネル展示・体験訓練の 3 つの訓練を実施しました。このうち、防災ボランティアが参加した②と③の訓練について報告します。

②道路障害物訓練(矢内、若尾、柴田)は前日に現地の多摩中央公園で関係者(ボランティアのほか、南東建職員、小磯組社員の合計約 35 名。)が集まって、午前中に予行演習を行いました。

当日は午前 7 時 45 分に乞田川・山王橋河川敷に集合し澤井所長の訓示を受けた後会場に移動し、午前 11 時から、「ゴォー！ ガラガラ！」という爆音と放送を合図に訓練が開始されました。初めに、ボランティア 3 名が瓦礫と倒木でふさがれた道路現場に赴き閉塞状況の調査を実施。



現場に到着した工区長あて被害状況を報告。(瓦礫等で約 20mにわたり道路閉塞が発生。)工区長は直ちに、所本部に連絡すると共に、関係業者に緊急通行路の確保を指示しました。指示を受けた業者作業班が現場に到着後、ペイローダーにより、瓦礫の除去、片寄を行い、緊急通行路を確保。この通行路を交通開放し警視庁、消防庁の先遣隊(バイク)の通行後、警視庁、消防庁、自衛隊等の救援関係車両が続々と通り、現場での救援、救出活動を展開しました。空からは消防庁、警視庁のヘリコプターによる救助活動も実施され 12 時頃には、消防車による一斉放水訓練を行い、訓練は無事終了しました。

③パネル展示・体験班(丸岡、杉本、柿塚、佐々木)は 8 時頃に展示場所である「パルテノン多摩」近くの南東建ブースに到着し、南東建職員による展示・体験ブースの準備のお手伝いをしました。このブースは、土砂災害パネル展示のほか、「水のう作り体験」、「ロープワーク体験」、「土砂災害警戒区域の個人面談」を行いました。花火の合図で9時からの開始予定でしたが、8時50分頃から中学生が「ロープワーク体験」に集まりだし体験の順番を待つ状況で、その後も生徒達のほか、お子さん連れの家族やお年寄りの参加が引きも切らず、終了まで続く盛況でした。「水のう作り体験」も子供たちを中心に、「乾いた水のう袋」を水に浸し、水をかけたりして、膨らんでいく様子を興味深く楽しんでいました。

「土砂災害警戒区域の個人面談」は、案内役の頑張りや自宅の区域への関心も高く、相談は途切れることもなく500名を超える盛況でした。10時15分頃には三浦局長をはじめ建設局幹部の視察、激励がありました。私たちボランティアは、体験された方々への飲み物配りや、夫々の「体験」への補助、案内などを中心に、南東建職員の皆さんのお手伝いを行いました。

その後、ボランティア参加者全員が合流し、小池都知事、阿部市長及び都議会・市議会の議長から講評等があり全訓練が終了。次いで、局本部テント前において、三浦局長から講評を受け、ボランティア参加者と局幹部の記念撮影後、澤井南東建所長の講評と防災ボランティア本部テント前で記念撮影を行いました。



本日の締めは場所を多摩センター北口の某所に移して所幹部と防災ボランティアの参加者全員(10名)とで昼食懇親会を行い本日一日の活動が終了しました。

参加された皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

総合防災訓練に参加して・・・東部公園班

70歳を過ぎて遅ればせながら防災ボランティアに登録し、初めて総合防災訓練に参加しました。

西部公園班のテントに顔を出すと、伊藤リーダーと丹野さんがすでにみえています。西部公園の現役職員の方々も、細岡所長をはじめ10数人集合しています。8時50分に朝礼を行い、展示解説を開始しました。



まず取り組んだのは、アンケートに協力してくれるお客様の呼び込みです。7月に井の頭公園で開催した「かわフェスタ」では、精力的に呼び込みをしないと通行する人をつかまえることが難しかったのですが、ここでは皆さんドンドン応募してくれます。まさに入れ食い状態です。そこでもう客引きはほどほどにして、自然の流れに任せました。この会場においでになる方々は、訓練や展示を積極的に楽しんでいるようです。

記入していただいた方に差し上げるグッズも評判がよくて、2種類のうちまずキーホルダータイプのLEDライトがアンケート開始以来1時間もたずに品切れになりました。もう一つのグッズである災害時の注意事項を図案化した和手拭いも、10時15分頃には綺麗さっぱりなくなりました。

手持ち無沙汰になったため、現役諸氏がテントの奥に置いてあった鉢植えを前面に並べだしまし

た。これらはカクレミノ、シラカシなど火災に強い木々です。今度は、この樹木類と震災時にかまどに変身するベンチを売りにして、通る人の目を引くという作戦です。これが結構うまくいき、説明に耳を傾けるお客様も程よく来場されました。

消防庁、警視庁、自衛隊のパレードがにぎやかに行われ、中央公園で知事講評を受け、ボランティアというよりも遊びに来たのではないかと勘違いするほど楽しい実践でした。もちろん帰途は、三人そろって冷たい生ビールで総仕上げをしました。

西部公園班 小山雅文

(3) その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大トンネルを体験	7/20	三建	6名	152名
野川ちびっ子先生集まれ	7/1 雨中止	北南建	—	屋内で 90名
わくわく川清掃 &川あそび	7/14 雨中止	北北建	—	—
夏休み多摩川教室	7/24, 25	京浜河川	4名	1731名
かわフェスタ	7/27	河川部	4名	951名
川のシンポジウム	7/30	河川部	10名	160名
計			24名	2994名

担当理事 高橋紀男

今年も各地で河川愛護月間行事

—延べ 55 名が活躍—

今年は非常に強い台風 15 号、19 号、21 号が立て続けに関東に上陸し、大きな災害をもたらしました。東京では多摩川二子玉川駅付近での溢水、日原のがけ崩れなどがあったものの、区部中小河川では長年の建設局の治水事業効果が実証され、ホッと胸をなでおろしたところです。

例年7月に集中して開催された河川愛護月間行事ですが、今年は猛暑の影響を考慮して、9月、10月の開催も始まりました。また二つの行事が雨天中止になり、都民参加が少なくボラ協の応援無しとなる行事もあるなどの波乱もある中、延べ 55 名の会員が参加しました。皆さんお疲れ様でした。

(1) 川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
隅田川	10/5	一・五建・治水	3名	55名
石神井川	9/7	四建・六建	2名	33名
多摩川	10/10	西建	1名	9名
南浅川	10/5	南西建(要請なし)	0	3名
計			6名	100名

(2) 川のパネル展

場 所	開催日	会員	都民等
二庁 1F 臨時窓口	7/8~12	9名	932名
新宿西ロイベントコーナー	7/19~22	16名	5,113名
計		25名	6,045名

川フェスタ・何と 1000 名！・・・公園班

台風6号「ナーリー」が紀伊半島に上陸した7月27日(土)に都立井の頭恩賜公園で開催され、当協会から丹野修、小山雅文、林敏彦、小野敏正がスタッフ参加した「かわフェスタ」の報告です(余談ですが、27日は神代植物公園で臭いにおいを放つショクダイオオコンニャクが3年半ぶりに開花した翌日です)。

私が会場に向け自宅を出たときは、ちょうど雨雲が東京湾から市川市・船橋市方面に移動しているときで、土砂降りの中を駅に向かいましたが、9時頃の吉祥寺駅は、すっかり雨が止んで蒸し暑い状態になっていました。

私達は、集合場所の野外ステージ前で9時30分のミーティング開始を待っていましたが、別の場所で始まり、慌てて駆けつけ挨拶と自己紹介(ベンチには缶酎ハイなどのアルコール飲料の残骸、利用者も騒いでいたことから、場所を移したと聞きました)。前夜の降雨のために事前準備が十分でなく、私達の従事する「川のおすすめ情報」「神田川 今・昔」のブースもテントが設置されているだけでした。

特に、「神田川 今・昔」ブースは、神田川上流懇談会のメンバーが雨に濡れないようにと展示パネルをわざわざ事前に都庁へ運んで

いましたが未到着。準備に入れずに他ブースを偵察。開始時刻10時から30分程遅れてやっとの店開き。開始時は曇っていてしのぎやすい暑さでしたが、台風の影響かお客さんもまばら。11時頃には雨のぱらつく不安定な天候で、お客さんも伸びず。午後になりお客さんの姿も増えてきて、子供たちは、走り回ってスタンプラリーを楽しんでいました。「神田川 今・昔」のパネルを見て、井の頭池の水門橋からのチョロチョロの流れが神田川の源流であることを知って驚く人々。一方、学校で習ったという小学生。「井の頭の水辺（かいぼり）」ブースの人だかりにはかないませんでしたが、多くの方に神田川の歴史に関心を持ってもらいました。

15時を過ぎてもお客さんは途絶えず、「かわフェスタ」としては1,000名」近いお客さんをご案内でき、大きな事故もなく終了時刻の16時を迎えました。



東部公園班 小野敏正

東京の川を考えるシンポジウム2019

このシンポジウムは令和元年7月30日に都民ホールにて開催されました。

講演者は、布村明彦氏(中央大学研究開発機構教授・国土技術政策総合研究所長等を経て)、岡田沙也加氏(気象予報士・キャスター、「日テレNEWS24」、「[ウィークエンドウェザー]」に出演)、西園寺英華氏(河川部防災課長)の3名です。

まず、三浦建設局長が「近年の豪雨により多数の犠牲者が出ており、防災対策のあり方が問われている。この度の講演が命を守るための参考になれば。」と挨拶されました。

次に、布村教授は「最近の水害の特徴と減災のためにできること」について、2015年9月関東・東北豪雨災害(鬼怒川堤防の決壊)、18年7月西日本豪雨災害等を事例に挙げ、その際の被災者アンケート結果に基づき講演されました。①水害・土砂災害で何が課題か。特に住民の避難②なぜ人は避難しないのか。—自分に降りかかるリスクが分からない。③犠牲者とならないために、どのような状況だったら、避難開始スイッチを入れられるか。—居た場所周辺の現象情報の入手・人からの避難の薦め等がスイッチとなった人が多い。④災害時のスムーズな避難行動には、平常時に避難経路を事前に調査し、防災行動チェックリスト(マイタイムライン)の作成が大事—自分で作ったものは忘れない。

岡田キャスターは気温の上がり方や雨の降り方が極端になっている天気への恐ろしさやキャスターとしての心掛け(災害のシグナルを見逃さない、ニュース性を考える、季節の変わり目は意識を変える)について講演されました。災害時の生死の分かれ目として①避難行動に繋がられる人が近隣にいるか②防災マイタイムラインを作成しているか。

西園寺課長は東京都が発信する河川の防災情報について数多く説明され、詳細は家に帰ってから配布資料をご覧くださいとともにシステムへのアクセスをお願いされました。

最後に、災害から住民の命を守るには防災施設等だけでは防げないので、ご近所のコミュニケーションや平常時の防災マイタイムラインの作成が大事だなと思いました。なお、当日の防災ボランティア参加者は10名でした。

北南建班 池田繁敏

隅田川で元上司に遭遇！・・・一建班

日時 令和元年10月5日(土)

午前8時30分から午後12時30分

案内するルートは、東京水辺ラインに吾妻橋船着場で乗船して上流へ向かい、水神大橋でUターンして越中島船着場で下船後、徒歩で越中島公園地区から相生橋を渡り、大川端地区、月島地

区を通り明石町聖路加タワー前までめぐるミニツアーで、スーパー堤防をはじめとする川づくりの成果と「川の日」をPRし、人と川との関わり合いを感じていただける設定となっていました。

例年、本コースの催しは7月の暑い時期に開催されていました。しかし、今年は気温の上昇による熱中症や体調不良を招かないよう10月開催になりましたが、当日は結局30度を超える真夏日の中で実施されました。そのため徒歩の距離は、佃大橋から勝鬨橋間と対岸のテラス散策を省略して佃大橋を渡り、聖路加タワーを目指す約2Km(去年は、3.7Km)に変更されました。ここにも暑さによる健康への配慮がうかがえました。

防災ボランティアの参加者は、平田忠夫、佐野正生、藤野文隆の3名で、8時30分までに受付、ミーティングを済ませ、役割である吾妻橋船着場への案内係として、吾妻橋の東詰と西詰及び墨堤通りと浅草通りの交差点へ各1名が向いました。

参加者は、都民55名、スタッフ20名、ボランティア3名の78名が2班に分かれ東京水辺ラインの「さくら」に乗船し、9時30分吾妻橋船着場を出航しました。

船内では東京水辺ラインのガイドさんによる分かりやすくて確かな説明があり、参加者は隅田川クルージングを満喫していました。ちょっぴり残念だったのは、著名橋に長寿命化工事の足場が架かっていて橋の全容を見てもらえなかったことです。



10時30分過ぎ越中島船着場で下船して、いよいよミニツアーの開始となり参加者にイヤホンを配布し、トイレを済ませ1班から出発となりました。

越中島側から対岸の大川端地区の説明、相生

橋を渡りビオトープに興味を示す参加者からの質問と説明、大川端のパリ広場からスカイツリーを眺め、佃公園を過ぎ住吉水門など要所で河川事業の取り組みについて説明がありました。

江戸風情を残す佃島界隈を散策して、つくだ煮屋の前でお土産休憩を取り、あとは一気に佃大橋を上り、明石町聖路加タワー前でアンケートに協力して頂き事故なく時間通りの解散となりました。

私の港湾局時代の上司と奥様が1班に参加されたのを偶然発見し、2班担当の私とすれ違いざまのわずかな時間でしたが、懐かしく言葉を交わすことが出来たのは大変有意義でした。

一建班 藤野文隆

環七地下巨大トンネルを体験・・・三建班



← トンネル内部に写されたプロジェクションマッピングによる映像



三建班 望月裕

川を歩こうー石神井川・・・四建班



四建班 荒井一郎

川を歩こう多摩川・・・西建班



西建班 東野寛

前期・道路施設等点検終了

前期「道路の施設とバリアフリー点検」が6月18日から7月26日まで行われ、会員54名が参加しました(下表)。参加された皆様、暑い中ご苦労様でした。後期は11月～12月上旬に予定されています。よろしくお願いいたします。

事務所	実施日	参加協会員
一 建	6/26～7/26	4 名
二 建	6/25～7/10	5 名
三 建	6/20	3 名
四 建	7/1～7/17	7 名
五 建	7/11	1 名
六 建	7/8～7/12	3 名
西 建	6/2～7/10	8 名
南東建	6/18	8 名
南西建	7/4	8 名
北南建	7/22～7/25	3 名
北北建	7/10	4 名
計		54 名

担当理事 久保田元久

安心して利用できる道路に・・・三建班

7月19日(金)午後1時40分から、青梅街道(中野区 杉山公園交差点～杉並区境)約500mの区間について、両側の歩道を上下二班に分かれて、バリアフリー点検が実施されました。

当日は雨の予報でしたが、皆さんの日ごろの行

い？で晴れ間が見え、蒸し暑い中で、三建の松島所長、片岡副所長、橋本管理課長、圓地補修課長をはじめとした三建職員と建設防災ボランティア協会の瀧澤、鷺見、望月が参加し、道路の段差や勾配、視覚障がい者誘導用ブロック等の状況について、車いすも利用して点検しました。

歩道幅員が比較的広い区間でありましたが、交差点部や支道と歩道との擦り付け部で、車いすでは超えられない勾配などが確認されました。

こうした点検結果を道路施設整備に生かしていただき、誰もが安全で安心して利用できる道路となるよう期待しています。



三建班 望月 裕

暑い中8人で点検・・・南東建班

6月18日(火)梅雨の晴れ間の天候の中、南東建防災ボランティア(以下敬称略。武内、織田、杉本、矢内、大坪、若尾、佐々木、柴田の8名)は令和時代初となる第一回徒歩点検に参加しました。

当日朝9時すぎに南東建事務所に集合、澤井所長から「日頃の活動への感謝と熱中症に留意して取り組んでいただきたい」とのご挨拶を受けた後、現場に向かいました。

本日の点検現場は、鶴川街道・栗谷交差点から中町交番前までの4.2km区間であり、起点部には9時45分頃到着し、左側担当(L班:武内、織田、若尾、佐々木及び相場統括課長代理)と右側担当(R班:杉本、矢内、大坪、柴田及び佐藤主事)とに分かれ点検を行いました。全体的な印象では、南東建のご努力により、車道、歩道とも比較的きれいに管理されていました。しかし、沿道の店舗や事業所により不適正な置き看板、立て看

板や反射鏡等の設置も見受けられ、また経年劣化によりグレーチングと街渠部たたきコンクリートとの段差を生じた箇所もあり、万一の事故防止の視点から、若干の指摘をさせていただきました。

鶴川街道・日向台交差点付近では、この前後区間が工事課において事業中であり関連する市下水の先行工事が大掛かりに実施され、早晩この区間も所関係者の努力により、両側歩道が整備された道路として完成するものと推察します。

また、菅原神社交差点においては交差している鎌倉街道線が既に 4 車線道路として整備済みであり、以前、この付近の薬師池方向に残存していた用地物件も所関係者のご尽力により、既に除却され、計画断面により完成していました。

ここで、本日の点検もあと一息でしたが、日中の暑さと参加者の健康維持を考え、若干の水分補給タイムをとるとともに、菅原神社の鳥居をバックに全員で記念撮影を行いました。そして、最後の区間である鎌倉街道線との分岐部から町田街道との交差点(中町交差点)までの約 800m区間(幅員 6.5~7.0m の 2 車線道路)について点検しました。この区間は道路幅員も狭く沿道に都立町田高校も立地しており、所関係者の工夫により片側歩道や緑色の路側帯が整備されていました。11 時 45 分頃、終点部の町田街道との交差部である中町交番前に到着し本日の点検が無事終了となりました。



全員が所に戻った後、荒井補修課長にご報告、ご挨拶の後、12 時過ぎに帰路につきました。途中、いつもの場所で、昼食懇親会を行いました。この懇親会では、今回から久しぶりに復帰した大坪さんを囲みながら、福島県での東日本大震災復興

支援時(任期付き職員として3年間)の苦労話などを伺いながら相互に懇親を深め、最後に次の防災訓練への英気を養うとともに、気合を入れた一本締めにより本日の全予定を終了いたしました。末筆で恐縮ですが、澤井所長はじめ南東建の皆様、心より感謝するとともに、ご参加いただいたボランティアの皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

南西建班



南西建班 老沼宏二

隅田川著名橋等ツアーは好評です

昨年 6 月に始まった「隅田川著名橋等ツアー」



は、多くの応募者から抽選で選ばれたお客様だけが参加できる、貴重なイベントになりました。今回(8 月 22 日)は

夏休み中でもあり、お母様と 7 歳、11 歳のお子様から 83 歳のご婦人まで、幅広いお客様 13 名に対し、ボラ協 10 名、公社 2 名でご案内し密度の濃いツアーとなりました。暑い日でしたが、天気も良く川風を浴びてのツアーは気持ちよく、下船後集合写真を撮り解散となりましたが、ご満足頂けたと思います。



参加された、お母様とお子様達から感想を頂きましたので紹介します。

隅田川著名橋等ツアーアンケート

次のご質問にお答えください。ご参加日：8月22日

1. 年齢 ①20歳以下 ②30歳代 ③40歳代
④50歳代 ⑤60歳代 ⑥70歳代 ⑦80歳代

2. 性別 ①男性 ②女性

3. ツアーは得意になりましたか
①大満足 ②満足 ③やや満足 ④やや不満 ⑤不満

4. ツアーの感想は？
①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満

5. ツアー全体時間は？
①長い ②やや長い ③ちょうど良い ④やや短い ⑤短い

6. 歩行距離は？
①長い ②やや長い ③ちょうど良い ④やや短い ⑤短い

7. 印象に残ったもの(複数回答可)
①橋と土木展 ②隅田川の橋名解説 ③隅田川の歴史
④隅田川の建物や町の歴史等の説明

8. 本日のツアーについてご意見・ご感想

江戸時代から関東大震災まで現代の話題まで、橋に関する事たくさん学べました。平日は暑く、とても気持ちの良いツアーでした。ありがとうございました。ご協力ありがとうございました

8/22に著名橋等ツアーに参加しました。首都高の下を見たり、電車の下を見ることができました。風が気持ちよかったです。たくさん説明してくださりありがとうございました。

ふねのてんぽうデッキにのれてこのしかつたてのおスグツリーと電車とでくぐることができました。

勝どき担当理事 林幹生

新たな活動始まる

—「東京 橋と土木展」への支援—

新宿西口広場イベントコーナーで、夏休みも終わりに近い8月28日(木)から31日(土)まで開催された「東京 橋と土木展」は、4日間で52,000人の方が来場し、小池知事も顔をみせるなか、協会員は14名が参加しました。



自由に展示を観てもらうことが基本で、スタッフが積極的に説明を行う役割はないとのことでしたが、会員は日常会話の延長でお客様とコミュニケーションを計り、これまでの経験や知識を遺憾なく発揮して展示を盛り上げました。

真夏日が続く中、沢山のお客様の熱気も加わり、汗だくの活動となりましたが、「無料とは思えないほど模型・展示が充実している。」などの感想もあり、予想以上の好評を博しました。

次は11月14日から17日までの「土木コレクション」への参加です。今回は初めての参加で戸惑った部分もありましたが、今後ともセンターと協議



八馬智千葉工業大学教授の講義

担当理事 林幹生

協会からのお知らせ

- ① 「隅田川著名橋等ツアー」の研修会を12月3日(火)、道路整備保全公社17F会議室で予定しています。
- ② 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)に、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っています。ぜひご覧ください。アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

近年の気象降雨を異常気象とマスコミが騒いでおりますが、行政としては、これらの気象を通常降雨と捉え、これに対応する河川計画や水防計画に見直す時期と考えます。人を守るコンクリートも重要ですね。(T)

発行人 山口 明

発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫

